

・ じょうぶでがんばりのきくからだをつくる。

・ 自然を愛し、明るくのびのびとした心を育てる。

・ 自分で考え、なにごとにも行動にうつしてやりとげる態度を養う。

・ 友だちを大切に、互いに協力して遊ぶことができる態度を養う。

・ 豊かな表現活動をとおして、楽しく創意工夫する能力を養う。

この目標をもとにして、年齢別保育のねらいがきめられ内容が明確化されている。保育計画は、健康、社会、言語、自然、音楽、造形の六領域にわけられ、発達段階に応じた指導をし、生涯教育の一環として豊かな人間性を養うための努力をしている。

また「母の会」が保育園単位で組織され、年次計画を立て、会員、保母と連絡をとり会の運営にあたり、園児の幸せを願っている。

第三節 社会教育の拡充

社会教育と公民館活動の進展 昭和二十七年の大口村社会教育（公民館活動）の、全国大会での表彰という立派な、大口村社会教育初期の発展を基礎にして、昭和三〇年代の社会教育は公民館を主体とした活動の中で活発になった。大戦後の進展 一〇余年を経過して、社会全般に落ち着きを見せ戦後の復興も軌道にのり、人々の目は、その日、その

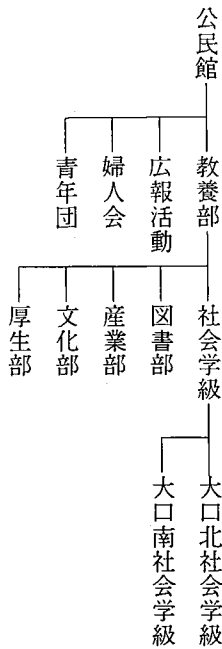
日の生活のみでなく、文化的な面へも広がりを見せた時期である。衣・食・住に対する不満は、まだまだ未解決であ

つたが、生活の改善や文化的要求へと目を向ける余裕がでてきた。その中で、一般成人教育を基調とした社会教育は公民館活動を中枢として全国的な拡がりが目立った。

昭和三〇年度の大口村事務報告書によれば、公民館活動は、つぎに示す資料のように五部から構成され、各部が実質的な活動を行っていた。また、公民館独自の広報活動（公民館報）があり、婦人会、青年団活動も、精力的に行われていた。

昭和三〇年度社会教育の事務報告

（昭和三〇年度大口村事務報告より）



各部の活動報告

大口北社会学級

運営責任者 後藤崎治

参加者 女子一四〇名

実施回数 一二回

延時間数 三六時間

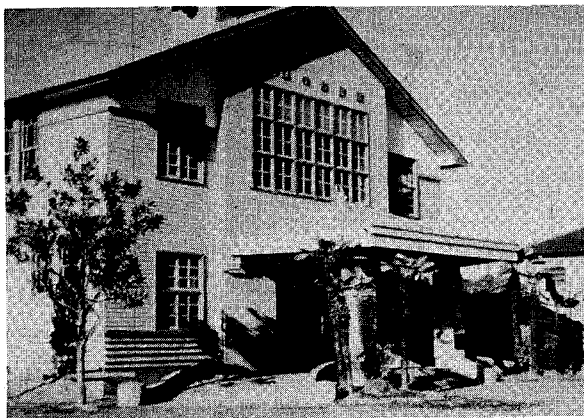


図3-134 旧大口村中央公民館の全景

活動内容 料理講習

夏季衛生

水稻の肥培管理

子供のしつけ

生活改善

現代の母親

新民法と家庭

大口南社会学級 運営責任者 長谷川輝

参加者 男四〇名、女八〇名

実施回数 一六回

延時間数 四八時間

活動内容 料理講習

座談会

映画鑑賞

社会見学

図書部 購入図書二六四冊 巡回文庫 一八箱

産業部 農事講演会 直播研究会 稻株展示会 農林産物家畜共進会 川端式講演会

文化部 演芸会七回 映画会三回 川柳句会 文芸作品募集

古代文化研究

厚生部 洋裁講習会 ビニール手芸講習会 敬老会 村内水泳大

会 村内体育大会 料理講習会 生活改善研究会

以上の五部とならんで公民館活動を支える組織として、つぎの三つの活動があり、それぞれつぎのような活動をしていった。

広報活動 公民館報二〇〇〇部発行

掲示板二三本設置

婦人会活動（村費補助五、〇〇〇円）

講演会 映画会 物資幹旋 料理講習会 見学旅行

体育大会参加 読書会 未亡人慰安会

青年学級活動（村費補助二〇、〇〇〇円）

幹部講習会 春季体育大会 県移動図書館 資金募

集映画会 村内水泳大会参加 盆踊り 追進農場見

学 老人の日の奉仕 文化祭

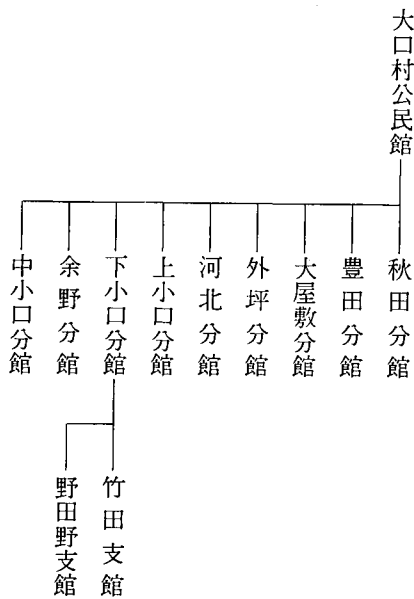
以上は、昭和三〇年度の事業報告の中に述べられた公民館活動の概略であるが、各部が独自に計画的に活動をくり広げている様子がわ

大口村青年文化祭 要項並びに清規

一、会期 昭和三十一年二月十二日・十三日二日間
 二、会場 大口村公民館
 三、目的 団員相互の研究の機会をもち、一般並びに団員の文化的活動の一助としたい。
 四、出品資格 大口村青年団員並びに一般村民
 五、出品部門
 第一部門 絵画
 第二部門 書道
 第三部門 詩、和歌、俳句
 第四部門 川柳
 第五部門 手藝
 第六部門 華道
 第七部門 農産物
 八、出品規定 各部門二点まで
 九、作品はすべて自作とする
 十、絵画の大きさは全紙四ツ切以内とし、用具は何にても可
 十一、書道はすべて額に附す
 十二、詩は三行以内とし、すべて仮紙か八つ以上とし、類に附す
 十三、和歌は八つ以上とし、類に附す
 十四、俳句は八つ以上とし、類に附す
 十五、川柳は短冊、色紙にかき、類に附す
 十六、手藝は、野菜、果物、土製品、木類その他で各作品には、容器を必要とするものは、容器をべく容器とともに出品する
 十七、出品票を必ずつける。絵画、書道、写真はその裏面に一部添附し、その他部門は同形式の出品票を作成し添附する
 十八、出品申込は、昭和三十一年二月四日（支部長宛）と、作品搬入日
 十九、出品搬入日
 二十、華道部門並びに野菜類を除く以外の作品搬入日
 二十一、昭和三十一年二月十日午後一時～五時迄
 二十二、華道部門、農産物部門の内
 二十三、昭和三十一年二月十一日午後一時～五時迄
 二十四、作品搬出日
 二十五、昭和三十一年二月十三日午後五時以降十四日一日中
 二十六、尚搬出以後作品は、公民館内に保管するも三日以後の責任は持たない
 二十七、搬入場所は、各支部長宅、大作は公民館階上
 二十八、賞状、各部門優秀作品に、賞状、各部門優秀作品に、但し、列照は青年団員出品者
 二十九、出品の出品の方
 三十、青年団各支部はその旨達規格しし出品物はすべてこの清規
 三十一、後主 大口村青年団
 三十二、後主 大口村青年団

図3-135 公民館報63号(大口村青年団文化祭)

かる。これらの行事の中には、もちろん共催行事、行事協賛の形のものもあるが、当時の公民館活動がきかんに行われていた様子を物語っている。また、この時期に、大口村内の各地区に、公民館分館が作られ、村内に九分館、二支館が設置され各分・支館独自の活動も行われていた。



公民館活動 これらの社会教育活動は、社会教育法を制定した国、それをうけて振興につくした県や村当局の指導や支えてい 補助によって、主として推進された。しかし、諸行事が形式に流れず実質的な活動となった大きき要 因として、参加する側（住民側）にあった諸活動への要求を見逃すことができない。

その諸活動を分類すると、①生活改善に関する活動、②教養娯楽に関する活動、③体育的な活動、④産業振興に関



図3-136 真剣な話し合い(昭和30年度青年団活動)

表3-141 昭和三四年度大口村公民館運営部事業計画

3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4	月	狙
講演を行う	映画鑑賞会青年・社会学級終了式毎月一回以上青年社会学級に関して放送	生活改善研究会 社会学級	青年学級 社会学級	青年学級 社会学級	青年学級 社会学級	青年学級 社会学級	青年学級 社会学級	青年学級 社会学級	青年学級 社会学級	青年学級 社会学級	青年学級 社会学級	青年学級 社会学級	健全な社会観・人間観に立脚して明るく合理的の生活態度を持つ村民の資質を啓蒙する
に行う場合がある	全村演芸大会尚各月十五日の農村の慰安映画会は条件の許す限り各部落毎	正月映画会 囲碁大会 慰安映画会 名氏講演会 学芸会観賞 農村慰安演劇会		慰安映画会	安映画会 大口村全村演芸大会慰安映画会	農村慰安映画 盆踊り大会	夏期服装ファッションショー 民成紡績演劇部演劇観賞	民成紡績盆踊り大会參觀十三日					芸術作品の鑑賞眼を開いて情操の純化を図り村民の慰安に資し文化一般に對する理解を進める
産業青年の育成	農業青年の育成	農業計画に対する懸談会(部活) 計画推進懸談会(部落) 農事体験発表会	農業計画に対する懸談会(当局)	農業経営調査の結果と農業計画の発表 (大口村農業白書)	農家経営調査の結果と農業計画の発表 (大口村農業白書)	農家経営調査の結果と農業計画の発表 (大口村農業白書)	農家経営調査の結果と農業計画の発表 (大口村農業白書)	農家経営調査の結果と農業計画の発表 (大口村農業白書)	農家経営調査の結果と農業計画の発表 (大口村農業白書)	農家経営調査の結果と農業計画の発表 (大口村農業白書)	農家経営調査の結果と農業計画の発表 (大口村農業白書)	農家経営調査の結果と農業計画の発表 (大口村農業白書)	近代産業のあり方を知らしめ能率的、経済的の営法を探究する
図書整理反負会	図書整理反負会	図書利用実態調査役員研究会	読書感想発表会	読書指導研究会	読書週間行事の実施	全新村図書 分館巡回開始	毎月一五日・交換日 図書貸出	図書閲覧規定並に貸出規約制定 図書大会報告役員懸談会	図書整理 図書企画と図書購入整理 図書一覽配布	図書整理 図書企画と図書購入整理 図書一覽配布	図書整理 図書企画と図書購入整理 図書一覽配布	図書整理 図書企画と図書購入整理 図書一覽配布	読書の趣味を養い教養を高める
青少年輔導	青少年輔導	施設懸問	青少年輔導	編物講習	九月より三日まで料理講習一回四〇人宛、食生活改善の目的	秋老会 秋季大掃除指導 懸靈祭	盆休洋裁講習 敬老会 秋季大掃除指導 懸靈祭	ラジオ体操会 検便実施	農繁慰安映画会 青少年輔導(放送)	時間励行運動	青少年輔導	保護家庭懸問	村民の保健衛生思想善導
			村内卓球大会			村内相撲大会 年令学令別 青年団 中学	村内相撲大会 年令学令別 青年団 中学	ラジオ体操一日一〇日 水泳講習会小中学校一般、 村内水泳大会、村内野球大会	ラジオ体操準備	村内陸上競技大会 国民体育祭日	村内陸上競技大会 国民体育祭日	村内陸上競技大会 国民体育祭日	村民体育スポーツの振興を計り明朗健康な生活の確立を計る

とか技術を伸ばすとかいう目的ではなく、共にたのしむという雰囲気の中で行われていた。老若男女が集まったのしい一日をすごすというレクリエーションである。この中から、この内容ではあきたらないとする人々が出て、学校教育、特に学校のクラブ・部活動で得た技能によって、スポーツとしての分化が行われ、同好会やスポーツクラブに進展していくのであるが、村民のほとんどがスポーツに関して未分化であったことが、みんなでのしむ運動会を可能にしてきたといえる。昭和三三年度村民体育大会は図3-137のように施行された。

また、専業農家の多かった当時は、各部落内のコミュニティも濃密であり、会に参加するのに都合がつけやすいような季節とか時間帯に共通性があったことなど、農村特有の生活形態が、これらの活動を支えていた。その後、農家の兼業化がすすみ、また工場誘致にともなう非農家の激増によって、社会教育は変化を余儀なくさせられていくのである。

当時の社会教育の中でもっとも重要な内容は、産業振興に関するものである。人力、畜力、また有機肥料に中心のあった農業から機械化、科学化を目指して農業が発達していく時期であり、新しい農業技術はもとより、広く農業経営一般についても、村民の要望が強かったことが社会教育を支える大きい柱であった。当時の大口村の主要産業が農業であり、農業の生産性を高めるために主として農業改良普及員を講師として稲作の肥培管理や病虫害、品種改良、農機具の改良等、直接に農業振興と関係する内容の活動が多かったことも当然である。

青年学級は昭和三二年度県より産業教育実験学級の委嘱をうけ、農業に関する知識、技術の習得を中心に二八回に亘り講座を開き大きな成果をえた。

第3節 社会教育の拡充

表3-142 青年学級(支部学級) 開講
 産業教育実験学級(中央学級) 開講
 表3-142 産業(職業)教育(実験学級)実施計画

生活	経営	養蚕	蔬菜	畜産	稲作	部門	研究
善食台所の改善 衣服の改善	〃〃〃〃	農業経営の改善	水田裏作 蔬菜の栽培 畑作蔬菜の栽培改善	養乳 養豚 鶏牛	普通栽培 早期栽培 直播栽培	土壌検定 実地研修	学習題目
〃講話実習	〃〃〃〃	講話	〃実地研修	〃〃〃講話	〃実地研修	講話及び実地研修	学習方法
三三三三	三三三三	三	三三	三三三三	三三三三	三三三三	時間
〃〃〃〃	奥村 宣子	清水 要	〃長谷川尚之	大野 脇彌 刑部 正彦 保浦 義彦	〃長谷川尚之	長谷川尚之 水野 隆	講師氏名
〃〃〃〃	普及員	普及事務所 次長 課長 農業改良 大中教諭	〃普及員	〃職 家畜保健所 員	〃普及員	普及員 篤農家	講師の所属 役職名又は 略歴
〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃	〃〃	〃〃〃	〃	希費負担 望	備考

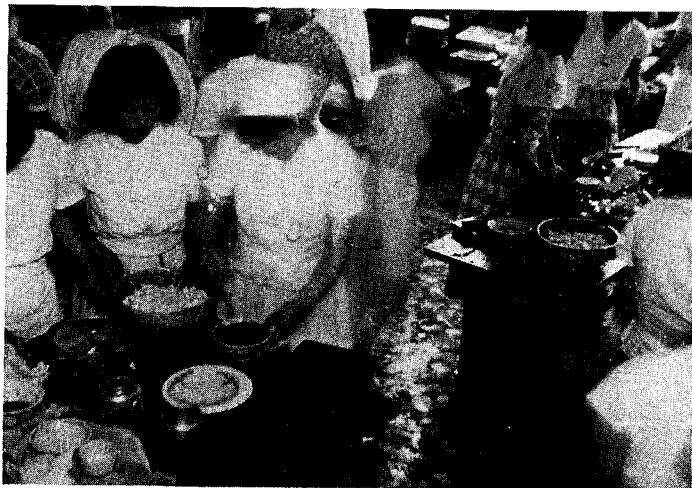


図3-138 料理講習会(昭和30年度青年学級)

公民館活動
の財政基盤

昭和三〇年度の大口広報に、各分館毎の収支予算が掲載されている。その中で下小口分館の収支予算をとりあげて資料とした。

収入 二〇七、〇〇〇円

村補助費 一〇、〇〇〇円

部落助成金 四〇、〇〇〇円

団体協力金 七〇、〇〇〇円

寄付金 三五、〇〇〇円

部員分担金 五二、〇〇〇円

実行組合、養蚕組合、養鶏組合、出荷団体の協力金
分館整備拡張、文化部青年グループ演劇協賛寄付金
部員グループの事業毎の負担金、資金造成活動を含む。

支出 二〇七、〇〇〇円

総会費 一〇、〇〇〇円

年二回の総会費

委員会費

部長会費

グループ会費 五円

支出項目のみ

役員報酬費

旅費

諸手当費 一五、〇〇〇円

講師謝礼

教用物品費	五、〇〇〇円	分館図書館、書籍、損料、謝礼
印刷費	六、五〇〇円	文具費を含む
施設費	九四、〇〇〇円	分館設置のための模様替え、拡張、電気メーター取付
備品費	一五、〇〇〇円	机、整理棚、下駄箱、その他の備品
修繕費	二、五〇〇円	
薪炭費	一、六〇〇円	木炭代
電灯使用料	三、六〇〇円	
文化部特別事業費	四四、〇〇〇円	文化部、演劇部、青年グループ事業費
普通事業費	二六、〇〇〇円	各部事業必要費
予備費	七、二九五円	

収入面で、団体協力金と寄付金の額が多く、全体の半分以上を占めていることが目をひく。この年は、下小口分館の施設、設備が新・改造されており、特に支出が多い年なので、施設を利用する各種団体からの協力金・寄付が多いのである。また、部員分担金が全予算の四分の一を占めているのも、当時の社教関係者の意欲を示すものといえる。

社会教育の充実

昭和三〇年代の社会教育を、住民の直接参加による原始的な未分化な活動とすれば、四〇年代の社会教育はより高度に分化した専門的な活動に変化した時期であるといえる。また、活動に参加する側も地域住民中心から工場事業所の勤務者（他市町村民が多い）の比重が大きくなってきた時期である。高学歴化の現象が著しく、学校教育の場で得られた知識、技能はより高度化し、体育面においてはスポーツ種目の専門化が

すすみ、文化活動においても、より分化した、程度の高い内容へと変化してきた。

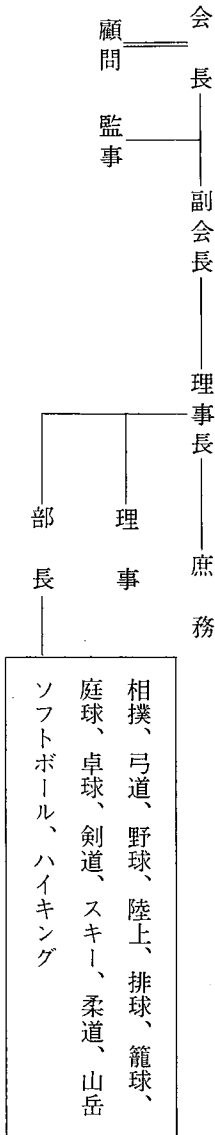
この間に、テレビを主とするマス・コミュニケーションの異常な発達があり、他方、住民側にとっては大口町内への各種工場の誘致にともなう住環境の変化、また、高度経済成長下での職業の多様化、農業の質的变化等、従来になりにくい大きな変化がもたらされた。戦後の社会教育を支えてきた要因が変化したために、社会教育の内容も変化してくる。教育内容も大きく統廃合され、また、社会的な要求に応じて新しい活動が新設されるなどした。

体育的活動

レクリエーションとしてとりあげられてきた多くの活動は、しだいに分化して運動種目別の同好会の形になつてきた。また参加者も住民の参加より、大口町内の各会社、事業所等の職場のグループの参加が多くなつてきた。

とくに昭和三九年は、オリンピック東京大会が開催された年であり、この年に国や県の指導にもとづいて各地に体育協会やスポーツクラブが設立され、レクリエーションのスポーツ化、専門化が、にわかには推進されている。大口町でも昭和三九年に、各学校の体育主任、各工場、事業所の職場代表により、大口町体育協会が設立された。

図3-139 大口町体育協会組織図（設立当時）



体育協会が設立されると、東京オリンピックに協賛するという形で、その前後に各部で多くの行事が催されている。昭和三〇年代の体育行事とは明らかに性質がちがひ、各種目ともやや専門的な知識や技能が必要であり、また、参加する側も、即席でだれでもというわけにはいかなかった。中・高校あるいは大学時代に一応そのスポーツに関する素養を得た職場の人が特定のスポーツ同好会などの組織に加わっていることが、事実上の条件とならざるを得ない。参加者がこのように分化することは同時に主催者、協催者側にも専門的な知識を持つ指導者が不可欠となってくる。そこでは、相当に程度の高い技能が目標とされ、市町村対抗の試合なども実施された。当時、実施された大会の二、三の例をあげてみると、

卓球 大会

職場毎にチームを組んで参加する。審判規定は日本卓球協会規則による。その他、使用する球の種類、試合当日の着衣についても細かい規定がある。参加した職場は、民成紡、東海鑄造、兼房刃物、東海織機、大口中学校となっている。

スキー講習会

大口町体育協会スキー部の主催、大口スキークラブ員参加

バドミントン大会

丹羽、葉栗在住在勤者で部落代表、職場代表を組織して参加

水泳 大会

部落代表、職場代表

ソフトボール大会

分館対抗、職場、事業所対抗

昭和三九年一〇月に実施された大口町体育祭は、町民職場を含めた広い層の人々を対象に計画実施されている。こ

れは、社会教育草創期の村民運動会の性質をほとんどそのまま残すものであり、実施計画や運営では、詳細さが加わっているが、参加者や競技種目はだれでも参加できるという気安さが残されている。

東京オリンピックの開催年ということで、オリンピック関係の種目がならぶ。また、そのころ設立された老人会の寿楽学級や、活動がしだいに活発になってきた子供会、また、大口町内の各種工場や会社の参加が多くなってきているのが特徴である。

昭和四〇年代は、青少年の非行化が問題になり出た時期である。犯罪も、生活に困つての犯行から、遊び型犯行に移行しだした時期である。終戦

直後から昭和三〇年代にかけては、戦災復興や、衣食住等の生活安定を目指して、世の中全体が建設的に活動しており、新しい日本の建設という大きい目標のもとに生き生きと動いた時期である。四〇年代からは、生活は向上充実し、産業経済は高度な発展をみたのであるが、その反面、精神的には退廃的な気分が見られるようになっていく。精神の退廃、情操の貧困はし

種目	参加者
町民体操	南小学校 児童
鼓笛パレード	南小学校 児童
長寿競争	寿楽学級
東京オリンピック讃歌	北小学校 児童
広報遊戯	公明選挙推進協議会
リレー	子供会、職域団体
東京五輪音頭	大口町婦人会
オリンピック祭	南北保育園
キックドリブル	職域団体
リレー	青年団
交通安全	江南警察署
カチカチ山	商工会
ボール送り	公民館分館
聖火リレー	消防団
はしごくぐり	青年団
体操	大口中学校生徒
輪投げ	来賓、公職者
仮装競走	分館、職域団体

図3-139 体育祭プログラム(昭和39年)

だいに社会問題化して、学校教育に対しては道德教育の充実への要望ともなってきた。他方では、青少年育成の基盤である家庭での教育を見直し充実させたいとする動きにもなつてあらわれている。

厚生省児童家庭局は「子供の健全育成」という刊行物を出して、主として家庭向けに啓蒙活動を行い、文部省初等教育局も、学校教育に対する家庭教育の協力の重要性について通達を出している。それらを受けて県では「明るい家庭を作る運動」の実施について、知事名で各市町村教育長あて協力依頼を出している。

大口町社会教育でも家庭教育学級を主催して、つぎのような活動を行った。

学習時間 一二時間

期 間 昭和四〇年四月～四一年三月

対 象 男七名 女四〇名

場 所 大口町公民館

学習課題 一 子供の現代的教育

二 祖父母の教養

三 家庭での子供のしつけ

四 家庭内の諸問題

五 母親と子供の話し合い

六 老人と、子供の教育

七 現代っ子と教育

八 青少年教育

九 幸福な家庭生活

一〇 住居の話

一一 現代婦人のあり方

いずれも大口町内や近接市町村の学校関係者を講師とした講話会が中心である。

この後、家庭教育学級は、青少年の非行防止を主題にして、盛んに実施されるようになった。非行の内容には、シ
ンナー吸飲等の有機溶剤を用いるものから、自動車、オートバイを使った集団非行まで多種多様に亘り、それらの基
本的な要因を求めて、家庭での教育機能の見直しがせまられているのである。

社会教育の

現 状

幾多の業績を重ねつつ本町の社会教育は、

町教育委員会・公民館運営審議会・社会教
育審議会が中心となり、充実した計画のも

と全町民の力を結集し、より一層の進展を期している。

昭和四九年以来発足した派遣社会教育主事の受け入れ
も、本町の社会教育の充実・発展に大きく寄与してきた
といえよう。

こうしたなかで昭和五四年には、町民の強い要望と時
代の推移に対応して、大口町は文化・体育の殿堂として



図3-140 大口町中央公民館

第3節 社会教育の拡充

表3—143 昭和54年度における利用状況

月	昭和54年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	昭和55年 1月	2月	3月	計
回数	64	69	69	115	92	106	117	100	88	68	88	124	1,100
人数	3,966	2,582	3,356	4,682	4,085	2,645	6,242	3,128	4,507	2,387	4,313	4,968	46,861

表3—144 中央公民館

位置	工期	工費	用地費	延床面積	構造	建物
大口町伝右一丁目四七番地	昭和五二年七月着工、同五四年三月三〇日完成	七億八千二百拾壹万八千円	壹億二千万円	中央公民館三、六七四・六六平方米	鉄筋コンクリート造二階一部ペントハウス付	講堂、教室(大・小)、調理実習室、体育室、礼法室、和室、視聴覚室

近代的な施設を備えた中央公民館(図書館・老人福祉センターを含む)を新しく建設した。

昭和五五年度社会教育は重点目標をつぎのように設定して、広い分野にわたる組織的な活動の充実強化と、各種のクラブ・団体の自主的な運営による活動の推進に力を入れ、生きがいある、充実した町づくりにつとめている。

・重点目標

- 一、組織と指導体制の充実強化
- 一、生涯教育の観点にたった学習の計画的推進

一、地域に根ざした文化の振興

一、青少年の健全育成と自主的活動の促進

一、健康と体力をつくるスポーツの振興

一、老人福祉センターの積極的活動

一、図書館の利用拡大

社会教育

審議会

発足以来、青年団、婦人会、子ども会、各種学級などの活動、町民体育祭、成人式などの行事にたずさわり、その進展をはかり、今日では人口の増加、都市化など多様化する要望に対応し社会教育の充実強化をめざし、町行政との連絡を密にしながら運営にあたっている。現在、一〇名の委員が委嘱されている。

図書館

本町では、昭和二五年中央公民館の建設に併行して小規模ながら図書室を設け、分館の図書部員により巡回貸出しを実施し、住民の読書熱の高揚をはかってきたが、蔵書数も少なく、十分な成果をみる事ができず、また県の移動図書館の利用も比較的少なく地域における読書活動も積極的な推進はみられなかった。

以来、公共図書館の実現をめざし検討が加えられ、昭和五四年中央公民館の建設と同時に待望の図書館が開館した。



図3-141 大口町立図書館の内部(児童図書室)

第3節 社会教育の拡充

現在(昭和五五年三月現在)
 約一八、三五〇冊の蔵書を数え、大いに利用され、今後は運営委員会により、町民の声を反映し優良図書を増加をはかるとともに、読書クラブなど各種団体の協力を得て、利便度の拡大をはかっている。

大町町総合グラウンドは昭和四五年一月完成した。敷地面積四、六〇〇平方メートルに野球場、テニスコート、バレーボールコートなどを完備し、町民体育振興の場として、広く利用されている。

表3-145 図書館利用者数

(昭和55年3月現在の登録者4,007人、全人口の約25%)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	2,613	1,821	2,150	2,739	5,580	1,420	2,157	2,008	1,946	1,723	2,004	2,160	28,321

表3-146 体育施設と利用状況

(昭和54年4月~同55年2月)

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
総合グラウンド	64 669	86 1,098	87 987	86 980	94 1,094	84 942	6 69	42 387	11 145	5 52	18 217	521 6,089
大町南小グラウンド	8 114	8 117	6 89	13 182	7 92	12 170	4 59	10 142	11 160	- -	- -	79 1,125
大町西小グラウンド	- -	5 68	4 55	12 157	8 105	15 201	8 110	12 160	8 101	3 40	2 27	77 1,024
大町北小グラウンド	- -	5 60	- -	- -	- -	1 14	9 118	11 149	5 65	- -	1 13	32 419
中学校グラウンド	- -	- -	4 71	4 75	- -	2 37	10 184	8 151	7 149	1 21	5 105	41 793
中学校屋内運動場	4 120	6 250	5 220	4 120	6 194	4 120	5 150	8 265	8 180	8 180	4 120	62 1,919
丹羽高校グラウンド	- -	- -	4 83	- -	4 80	5 109	2 49	4 88	4 80	- -	- -	23 489

(上段件数、下段利用者数)

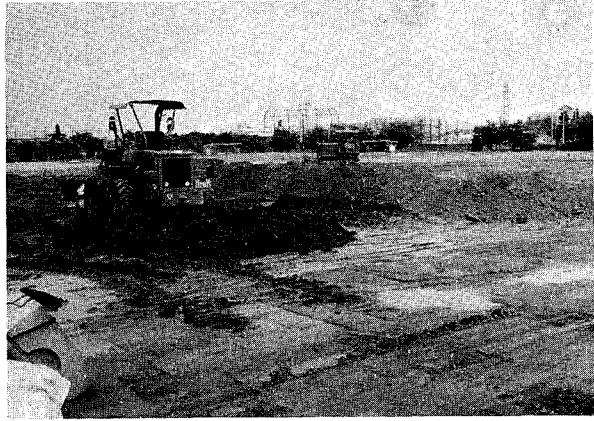


図3-142 整備される大口町営総合グラウンド

青年団活動 の消滅

発足以来、社会教育の拡がりとともに、町民の信頼のうちに、大きな前進をとげてきた本町の青年団活動は、昭和三五年ごろから経済情勢の急変によって団員はしだいに減少し、活動は自然消滅の状態となった。

すなわちこれまでの団員が主として農業従事者であったが、多くの青年が他産業で働くようになり、また高校・大学への進学率も高まり、これまでの团组织の中での活動が不可能となり、昭和四五年、ついに青年团组织は姿を消すこととなった。

婦人会活動

婦人会活動は、青年団活動のなき後、大口町の社会教育団

体の中核として自主的な活動に成長してきた。会員は町内主婦の約三〇パーセント、また末端組織のない地区もあり、積極的な加入をよびかけるとともに婦人の地位向上をはかっている。

昭和四〇年代に入ると、小集団による活動が芽ばえてきた。いわゆるグループ活動が行われるようになってきた。教養、料理、健康、趣味など多様化している。

また、地区においても支部活動もしだいに活発になってきたが、最近、主婦の家庭外就業者が増加し活動の推進にも困難な面もみられる反面、こうしたことによって生ずるといわれる社会的問題とも積極的に取り組むとともに、防災、省資源など幅広い活動も展開し、家庭生活における婦人の役割り、また地域社会における婦人の地位の向上に会

第3節 社会教育の拡充

表3-147 昭和31年度大口村青年団事業計画

月旬	名称	所属	月旬	名称	所属
四上	定例協議会	総務	十上	定例協議会	総務
〃	幹部講習会	〃	〃	弁論大会	文藝
〃	社会奉仕作業	産業	〃	料理講習会	生活
〃	郡幹部研修会	産業	〃	農場試験場見学	産業
〃	農業先進地見学	総務	〃	秋季体育大会	体育
〃	美容講習会	生活	〃	読書指導会	文藝
五上	定例協議会	総務	十一上	定例協議会	総務
〃	春季体育大会	体育	〃	文藝講演会	〃
〃	苗代消毒作業	産業	十二上	文藝講演会	文藝
六上	定例協議会	総務	〃	県図書貸出	〃
〃	県図書貸出	文藝	〃	郡連駅傳	体育
〃	消毒作業	生活	〃	講演会	産業
七上	定例協議会	総務	〃	郡連弁論大会	文藝
〃	料理講習会	生活	〃	料理講習会	生活
〃	講演会	産業	〃	定例協議会	総務
八上	郡連体育大会	体育	〃	弁論・産業体験	文・産
〃	定例協議会	総務	〃	発表大会	〃
〃	消毒作業	生活	〃	文化祭	文藝
〃	郡幹部研修会	総務	〃	手工藝講習会	生活
〃	講演会	産業	〃	定例協議会	総務
九上	定例協議会	総務	〃	社会福祉施設慰問	生活
〃	水泳大会	体育	〃	茶花道講習会	文藝
〃	盆踊大会	文藝	〃	縣青年産業体験	産業
〃	老人の日奉仕	生活	〃	発表大会	総務
〃	県図書貸出	文藝	〃	定例協議会	〃
〃	映画会	産業	〃	新年度役員改選	〃
〃	〃	〃	〃	幹部講習会	〃
〃	〃	〃	〃	郡幹部研修会	〃
〃	〃	〃	〃	総会	〃



図3-143 婦人会の活動「町政を聞く会」の盛況

員相互の協調の中で活動が推進されている。
 昭和五四年度の大口町婦人会の事業実績、事業費は表3-148・149のとおりで、会員は九支部一、〇八四名である。

表3-148 事業の概要（昭和五四年度）

月	行事	摘要
四月上旬	総会 役員支部長定例会	事業及び予算・役員承認
五月 （二月）	生活改善栄養教室 施設奉仕慰問 幹部研修会	毎月一回開催・事業内容検討 四教室開設（初級・上級A・B） 犬山市溢愛館、ひかり学園
六月	民踊講習会	“青少年を非行から守る”
七月	講演会	
九月	社会見学	
一〇月	町民体育祭参加 不用品交換会	
十一月	趣味の教室 婦人体力テスト	七宝焼教室ほか
二月	趣味の教室 ねたきり老人の慰問	手芸教室ほか

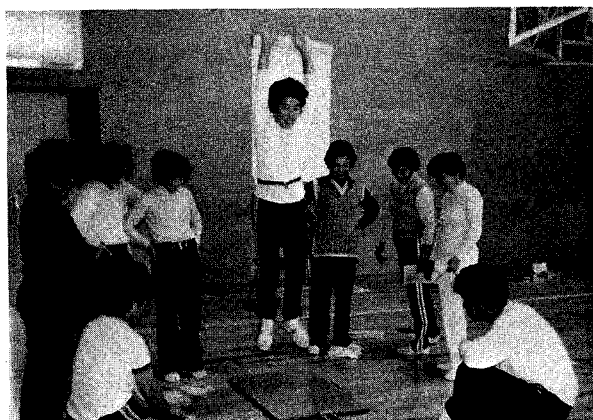


図3-144 婦人会活動「体力づくり」の様子-（2）

表3-149 事業費の概要(昭和五四年度)

収入の部 合計七九五、二八五円

内訳

会費	二二六、八〇〇円
町補助金	三三〇、〇〇〇円
公民館活動補助金	四〇、〇〇〇円
栄養教室会員費	一二六、〇〇〇円
繰越金	七八、二三〇円
その他	四、二五五円

支出の部 合計七九四、八二二円

内訳

本部活動費	六五七、六一二円
支部活動費補助	一三二、二〇〇円
予備費(雑費)	五、〇〇〇円

社会教育
講座の概要

昭和五四年度における社会教育講座は、計画の重点目標、生涯教育の観点にたつた学習計画の推進にそつてつぎのように広範に亘つて実施され、大きな成果を収めている。

また公民館講座では、それぞれの趣味を生かした料理・造花・アクセサリーの製作などの教室が計画的



図3-145 婦人の活動「七宝焼」教室(社会教育講座)

に開設され、幅広い人びとの参加があり好評をえている。

表3-150

名称	対象者及び会員数	回数	内容
幼児学級	幼児をもつ親 三九名	二一回	時代に即応した親と子の生き方と成長、しつけと健康
家庭学級 A	小学校一・二年生をもつ親 四一名	二一回	子どもの扱い方と親の心がまえ、家庭教育における親の役割
家庭学級 B	中学生をもつ親 四九名	二一回	中学生をとりまく諸問題と家庭教育の対応
婦人学級 (消費生活講座)	家庭婦人 五四名	一〇回	日常生活に必要な知識・技術 消費生活への対応
婦人講座 (生活改善栄養教室)	婦人会員 上級 六〇名 初級 六七名	六回	食生活の改善と検討 栄養改善と料理実習

高齢者教室
(善心教室)

老人問題が大きな関心を持たれるようになった社会のなかで、高齢者がそれぞれに適合した能力を高めつつ、生活に生きがいと潤いを求める狙いで、継続的な学習活動が積極的に実施されている。

昭和三五年よりはじめられたこの教室は概ね六五歳以上の高齢者を対象とし、学習を主体に毎月一回開

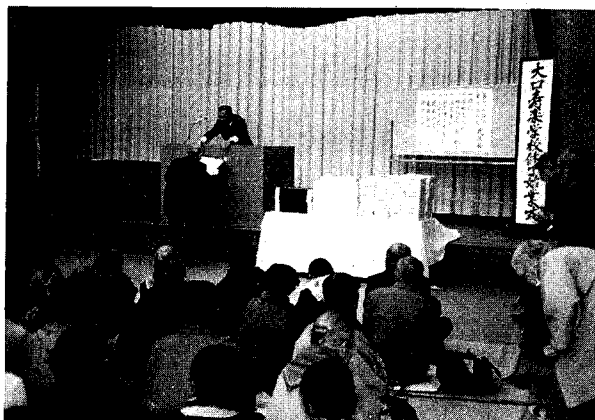


図3-146 寿楽学校修了始業式(高齢者教室)

かれており、明るく楽しい場として多くの高齢者が自主的に参加し、今日では八六八余名に達し、生涯教育の観点に立った学習は心の安らぎを与えるとともに、明るい家庭、伸びゆく町づくりの一環ともなっている。昭和五四年に竣工をみた老人福祉センターはその拠点である。昭和五四年度は、*「老人のくらしと心構え」*を学習の中心課題として進められ大きな成果を収めた。学習の実施概要はつぎのようである。

表3-151 実施概要

月	課題	内容
四月	交通安全	老人の生き方 心のやまい
五月	くらしと心構え	名画鑑賞
六月	情操を豊かに	婦家穩座
八月	くらしと心構え	歌舞伎の鑑賞
九月	情操を豊かに	京都
一二月	社会見学	明るいくらし
一二月	生きがいを求めて	青少年の非行について
二月	生きがいを求めて	老後の生きがい

青少年問題
協議会

昭和二八年一〇月、青少年保護育成に基づく県条例が公布され、これによって設置された協議会は、青年の健全なる育成を目的に、環境の浄化・非行の防止などに多くの対策をたて、所轄の警察署、保護司、推進員等の指導、協力を得、これが強化につとめている。

とりわけ今日の社会情勢が大きく揺れ動くなかで、青少年の指導対策の充実がさげばれ、協議会では学校側とも連絡を密にして、危険防止場所の掲示、不良図書の追放、悪の魔手から青少年を守るための印刷物の配布など、地域ぐるみの運動の展開と町民意識の高揚にあたっている。

協議会は現在、大口町長を会長に保護司、P・T・A、学校関係者など一〇名で組織されている。

子ども会 「明るく強くよい子どもになる」、を目的に昭和三〇年五月

発足した子ども会組織は、各分館の委員・児童委員らが中心となつて年ごとに活動が活発になり、現在は一分会、会員は小学生から中学生まで一、四一四名をもつて構成され、(1)子どもたちの自主的な活動により良い仲間づくりと協調の心を修得する。(2)レクリエーション・キャンプ・スポーツを通じてより豊かな情操を育てる。(3)子どもをよくない環境から守る、などの目標をかかげてかなりの成果をおさめている。

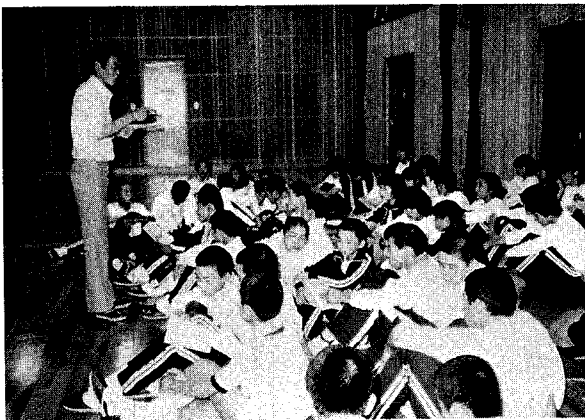


図3-147 子ども会の活動「リーダー研修」

毎年行われる球技大会、キャンプは、リーダーを中心に計画、運営され地区の人びとの関心の高まりとともにますます充実してきた。子ども会連絡協議会は、活動の推進力となる年少リーダーの研修、地区の指導者養成に積極的に取りくみ、社会教育の主要な推進団体としての意識向上につとめている。

表3-152 地区別子ども会会員数 (昭和五〇年度) (単位:人)

地区名	会員数	地区名	会員数
豊田	一三六	中口	一三二
秋田	一二六	下口	二二〇
大屋敷	一二四	余野	一五八
外坪	六一	さつきが丘	八五
河北	九九	垣田	一三八
上小口	一三五	計	一、四一四

P・T・A 従来の学校後援会的な性格から脱皮し、自主的な運営・活動となり、揺れうごく現代世相を十分把握し社会教育環境の整備、浄化に意欲的に取り組む一方、交通安全運動の強力な推進をはかり児童の安全を守るなど、また自主的な学習活動、家庭教育学級などを進め、本町の社会教育の主要な組織となっている。



図3-148 球技大会の風景

表3-153 町内各校P・T・Aの現況

会員数……		学校名	会員数	備考
大	口	中	七〇〇	昭和二年発足
南	小		三九五	昭和二年発足
北	小		五六八	〃
西	小		三七六	昭和五年発足(育友会)

〈活動概要(大口西小育友会)〉

学校創立の昭和五一年七月発足をみた大口西小育友会は、昭和五三年度県P・T・Aグループ活動振興事業の補助対象団体となり、三つのグループを編成し実践活動の推進にあたった。

各グループは三〇〜五〇名で構成され、活動はすべてグループごとに設けられた活動運営委員会によって、企画立案され、会員の教養、親睦、体力づくりを標題にかかけ、積極的に実施され大きな成果をあげた。

- 大口の歴史を学ぶ会
- 体力づくりで親睦を深める会
- 手づくり工芸と読書の会



図3-149 P・T・A活動(大口西小育友会)

各グループともそれぞれ特色ある活動で、地域住民にも広く関心をあたえ、これを契機に活動は地域の社会教育活動の中心となつて大きく進展している。

表3-154 昭和五四年年度P・T・A事業予算

学校名	予算額
大口南小	四三〇千円
大口北小	六五八千円
大口西小	四七〇千円
大口中	七九七千円

町民のスポーツ活動

公民館活動のなかで、はやくから活動の推進がはかられてきた本町の社会体育は、近年町民の積極的な参加と総合運動場の整備をはじめとする体育諸施設の充実によって、大きな発展をした。

年ごとに充実してきた町民体育祭は、全町民の体育の向上とレクリエーションを目標に企画され、町内の各地域、各職場がそれぞれこぞって参加し、会場となる大口中学校グラウンドは、一日中声援とかつさいに湧き返り、分館対抗の競技には一段と応援が高まり、今日では各分館とも



図3-150 みんな元気で(町民体育祭)-(1)

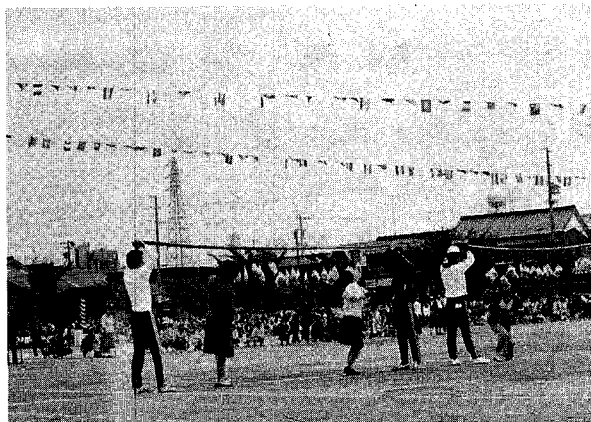


図3-151 みんな元気で(町民体育祭の風景)-(2)

伝統行事として力をいれている。

一方、日常生活の中でも自主的に各種のスポーツ活動がさかんになり、町は体育協会・体育指導委員会を推進母体として、多くの体育団体・住民の体力測定・婦人の体力づくりなどを重点に、町民の要望に答えてきた。昭和五四年度にはつぎのような各種のスポーツ教室を設け、体育指導員が中心となり初心者技術の向上、親睦・健康づくりに努力を重ねている。

表3-155

名称	対象者	参加人員	摘要
バドミントン教室	一般成人	三七名	七・八月の毎週日曜日(初心者)
テニス教室	〃	三三	〃
バレーボール教室	一般婦人	二〇	八・九月の毎週日曜日(〃)
卓球教室	一般成人	一八	一一、一二、一月中
スキー教室	一般	五六	一月一九・二〇日岐阜県
オリエンテーリング	〃	三五	二月一六日、町内約五キロの距離でポスト設定
壮年体力テスト	婦人会員	四五	一月二五日体力測定

体育協会

昭和三九年本町の体育協会が設立され、以来町民のスポーツに対する関心がしだいに高まり、中央公民館、総合グラ



図3-152 ママさんバレークラブの練習風景(中央公民館)

するとともに、健全な町民スポーツの振興と体育の向上、各種競技会の開催、地区大会への積極的参加の推進などを行っている。

加盟団体は卓球協会、軟式野球協会、バレーボール協会、軟式庭球協会、ソフトボール協会、剣道協会、バドミントン協会の七団体である。

体育協会ではこうした現状をふまえ、体育指導委員会との連携を密に

種目	チーム数又は人数	種目	チーム数又は人数
軟式野球	三四チーム	卓球	一五〇人
男子ソフトボール	二〇〇	バスケット	一五人
女子	九〇	剣道	三〇人
男子バレーボール	四〇	サッカ―	二〇人
女子	五〇	バドミントン	三〇人
軟式庭球	六八人		

表3-156 スポーツクラブ(昭和五五年四月現在)

ンドなど施設の充実、さらに近年、学校体育施設の一般住民への開放がはかられ、クラブ活動の一層の盛り上がりとともに、参加者も多く、スポーツ人口は、ますます拡大しつつある。

協会主催の競技は春・秋季町民体育大会、大口町・扶桑町親善体育大会、県民体育大会などがある一方、スポーツ教室の開設、各種競技の審判、あるいは指導者の研修、養成に努力している。

**体育指導
委員会**

昭和三六年に制定されたスポーツ振興法に基づいて本町では、同三九年体育協会の発足と並行して委員会が組織され、委員は一三名で任期を二年として、町民のスポーツに対する関心を高めることを目的に、組織の育成、実技指導にあたっている。また毎年開催されている、大口町民体育祭の指導援助にも積極的に協力し、大口町社会体育の発展につくしている。

**文化活動
団体**

町民の文化意欲が近年ますます向上するにつれ、多種多様な文化活動が活発になってきた。こうした状況に対応し教育委員会では指導体制の確立をめ

表3-157

クラブの名称	会員数	クラブのねらい
園芸クラブ	七〇人	園芸に関する知識・技術の修得
読書クラブ	一四人	読書活動を通して、明るい人間関係を高める。
民謡クラブ	六〇人	レクリエーションとして民謡の研修をするともに郷土の民謡の保存につとめる。
囲碁クラブ	三〇人	知識・技術の研修
謡曲クラブ	一四人	〃
民謡クラブ	一七人	〃
詩吟クラブ	四六人	レクリエーションとして詩吟を研修する。



図3-153 囲碁クラブ

会の諮問をうけ、文化財の保護、活用などについて調査、研究することにも、住民文化の向上に貢献している。

委員は五名で任期は二か年である。

昭和五四年度には、ふるさとを見よう、そして「郷土を心から理解し



図3-154 文化活動団体の様子

ざすとともに、各々クラブの自主性を尊重しつつ、組織の強化に努力している。

現在、本町では表3-157のクラブが、文化活動を積極的に行っている。

昭和五一年六月、大口町文化財保護審議会

文化財保護条例

が全面的に改正され、これが目的達成のため組織され積極的な活動を展開しているのが、大口町文化財保護審議会である。

この機関は、町教育委員



図3-155 “文化財めぐり”の様子

よう」の合言葉のもと、町内の史跡と文化財めぐりが、町民多数の参加を得て実施し、好評を得、昭和五五年度には、埋蔵文化財の発掘を計画している。



図3-156 豊田学習等共同利用施設

学習等共同
利用施設
昭和五五年三
月、豊田、下
小口地区に完

成をみた学習等共同利用施設は、国の防衛施設周辺民生安定の騒音対策事業の一つとして、多額の補助をうけ建設されたもので、総工費は約一億六千九百万円(豊田学共約七、九〇〇万円、下小口学共約九、〇〇〇万円)で、防音・冷暖房設備をそなえ、近代的に完備されて地区住民のコミュニティ形成の場として広く利用され、その機能を十分に發揮している。

地区では目的に沿い最大の効果をあげるよう、運営委員会を置き住民の各種の活動を中心に、年間の利用計画を立

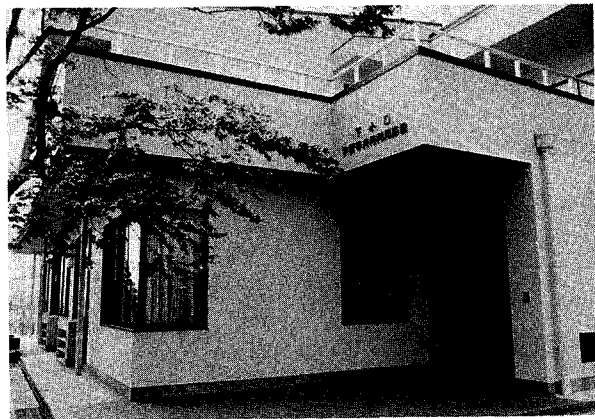


図3-157 下小口学習等共同利用施設

案し、子供から老人まで積極的に利用できるように努めている。

また昭和五六年には二ツ屋、大屋敷の両地区で住民の要望にんえて施設が竣工した。

第六章 宗 教

第一節 神社と寺院

概 況

昔から人々は素朴な生活の中でその精神生活の支えとして、神社・寺院を信仰して、正月や豊年祭りに
は氏神様へ参拝し、盆やお彼岸にはお寺へ参詣することが習わしとなっていた。

明治時代になって、国は神社・神道中心の施策をとり入れ、神社は超宗教的な制度（国家管理）に基づいて管理を強
めていった。大正時代を経て昭和に入るや、台頭した軍国主義のもと制度が一層強化され、神社はすべて国の施策に
そつて、軍国主義の一翼をにない八紘一宇の理想のもと、大戦へ突入した。

昭和二〇年の終戦は、こうした流れに大きな変化をあたえ、宗教界は激しく混乱したが、新憲法の公布により、信
教の自由が保障されたことよつて人々は落着きをとりもどした。

まず、神社は国家統制から完全にはなれた。これは昭和二〇年一二月の連合国軍の指令に基づいて行われたもの
で、歴史上の大きな変革であり、これに対応して宗教法人令が定められた。

仏教は、明治政府の政教分離の政策によつて国家権力からはなれ、それぞれの宗教は教えを広めるように心がけ、
信徒の増加を図ってきたが、国家管理下にあつた神社と同じように、戦争の激化が著しくなつた昭和年代に入つて、